

【目次】

1. 日本労働遺産に「日本労働運動発祥之地」石碑と惟一館煉瓦塀跡が認定される。1月13日
2. 友愛労働歴史館の役割の再確認
3. ご来館のお願い

1. 日本労働遺産に「日本労働運動発祥之地」石碑と惟一館煉瓦塀跡が認定される、1月13日！

友愛会館(東京芝。旧ユニテリアン教会・惟一館)の敷地の一角にあり、一般財団法人日本労働会館(宮本礼一理事長)が管理する①「日本労働運動発祥之地」石碑と②ユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡がこの程、「日本労働遺産」第一号に認定されました。



これは1月13日(木)開かれた日本労働ペンクラブ総会(山田計一代表、植木隆司事務局長)において認定されたもので、認定趣旨は「日本の近代的労働運動発祥の地に関する石碑と遺構」。認定された遺産は「日本労働運動発祥之地」石碑と、惟一館(初期労働会館)の煉瓦塀の一部と煉瓦です。

当日は日本労働ペンクラブから徳田孝蔵日本労働会館理事(友愛労働歴史館館長)に「労働遺産」認定証と認定盾が贈呈されました。

2. 友愛労働歴史館の役割の再確認

友愛労働歴史館(東京都港区)は、労働運動や社会運動に関する唯一の歴史資料館です。2012年8月1日、日本労働運動の源流といわれる「友愛会」の創立100周年を記念し、その発祥の地であるユニテリアン教会・惟一館の跡地に友愛会館が建設され、その中に友愛労働歴史館が新装オープンしました。

友愛労働歴史館の役割は、①友愛会から連合までの労働運動。②友愛会系の労働組合と縁の深い政党運動(社会民主党、社会民衆党から社会党、民社党まで)。③ユニテリアン教会ゆかりの人々・社会運動に関する資料の収集・保存、調査・研究、展示・情報発信となっています。

ここで、ユニテリアン教会とは何か、その教会と社会運動がなぜ結びつくのかを明らかにしましょう。ユニテリアンはキリスト教の一宗派で、ダーウィン、ニュートン、ナイチンゲールなど歴史上の偉人たちもその信徒だが、布教活動を行わないため信徒の数は非常に少ない。

1894年(明治27年)、金子堅太郎らの招きで来日した米国ユニテリアン協会のC.マッコーレイ



らが惟一館を建設し、「人間の尊厳、進歩と発達」をうたうユニテリアン・ミッションをスタートさせた。これがユニテリアン教会・惟一館の始まりであり、その創立には福沢諭吉も支援者として関わっていたと言います。

1898年(明治31年)、ユニテリアン教会・惟一館で安部磯雄らにより社会主義研究会(後の社会民主党)が結成されたことにより、ここが日本社会主義運動発祥の地とされる理由です。

さらに、1912年(大正元年)、ユニテリアンの信徒であり惟一館に勤務していた鈴木文治が社会的弱者である労働者の生活を向上させたいと考え、労働組合を創立。これが友愛会であり、後の総同盟、同盟、現在の連合へと続く労働組合の源流である。労働者の人格向上を重視する友愛会の活動は、渋沢栄一、新渡戸稲造、吉野作造など多くの著名人によって支えられていました。

こうした背景から、友愛労働歴史館では日本における労働運動、社会運動、そしてユニテリアンに関する資料を収集・保存・管理し、調査・研究を進め、常設展や企画展で公開しています。

3.友愛労働歴史館へのご来館のお願い

コロナ禍以前の見学者数は、月平均100名ほど。その大半は労働組合に関連ある人で、ほとんどは先輩の紹介で訪れています。また、同じ建物の9階にある会議室を利用した労働団体がそのまま来館する場合があります。彼らがもっとも関心を示すのが、常設展の「日本労働運動の100年余—友愛会・総同盟(戦前)を中心とする」です。2021年、諸般の事情において、歴史館は縮小し再オープンしました。コロナ禍ということもあり来館者は激減したこの2年です。常設展を中心になりますが、是非、ご縁のある方々に友愛労働歴史館のご紹介とご来館のお願いを申し上げます。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行:友愛労働歴史館

責任者:徳田 孝蔵

担当者:藤吉 大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairedokishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedokishikan.com>

惟一館から128年、友愛会から110年